

3. 参加者から得られた意見のまとめ

(1) 川崎区

午前の意見交換の概要

テーマ① 好きなところ、自慢したいところ ⇄ テーマ② 気になるところ、なおしたいところ

午後の4テーマに関する意見	良 ←	→ 悪
①自転車	・平地が多く自転車が利用しやすい ・バス路線が充実している	・自転車のマナーが悪く、危険 ・駅前等の放置自転車が多い ・駐輪場が少ない
②高齢者	・昔ながらの人がやさしい（コミュニティがある） ・病院が充実している	・病院が少ない
③子ども	・子育て世帯が増えてきた	・救急小児の受け入れ先が少ない ・遊ぶ場が少ない ・子連れで行ける場が少ない
④拠点・まちづくり	・交通が便利（東京・横浜方面や空港へのアクセスがいい） ・文化施設や商業施設が充実している ・ハロウィンなどのイベントがある ・海に面している	・空気が悪い→大分良くなった ・ゴミ ・「川崎」のイメージが悪く、知名度も低い
その他のテーマ		・ホームレスが多く不安 ・駅前の治安が悪い

午前の議論の傾向（4つのテーマ別に）

【自転車】川崎区は平地が多い地形であるため、自転車が利用しやすいことが利点であり、一方で自転車の利用マナーの悪さや放置自転車、駐輪場不足の問題が多く挙げられた。バス路線が充実しているという意見が多い一方で、放置自転車問題は駅だけではなく、バス停にも多く見られているという問題も確認された。その他、道路の段差の問題などが挙げられた。

【高齢者】昔ながらのコミュニティがあり、地域のつながりが深く、やさしい区民が多いという意見が出たが、一方新しいマンション住民などが町会に入れないなど、新旧住民のコミュニケーションをどう進めていくのかという問題が挙げられた。また、病院が充実しているという意見と、病院が少ないという意見が両方出た。高齢者施設、市立病院の改善を求める意見も出た。

【子ども】子育て世帯が増えて、活気が出てきたという意見があるが、子連れで行ける場所が少ないという意見が多く、遊び場や世代間が交流できるような公園がほしいという意見が多い。働いている親にとって子育てしやすい環境の充実や、小児の救急医療の病院の充実なども挙げられた。

【拠点・まちづくり】圧倒的に東京・横浜方面や空港などへのアクセスが良いという意見が挙がった。また、文化施設や商業施設の充実や、ハロウィンなどのイベント、海に面していることなどの特徴的資源があることが確認された。一方で東京・横浜の通過点にしない文化都市にしたい、川崎のイメージが悪いことや知名度の低さから脱却したいといった、イメージアップに関する意見が出た。

(川崎区)

テーマ③ テーマ 3: 将来(10 年後) 私たちのまちを どう良くしていきたいか出し合おう

防犯・自転車	福祉・医療
・駐輪場を増やしたい ・道路の凹凸を改善したい ・放置自転車のマナーを条例で規制したい	・受け入れ→在宅 ・公害等に起因した喘息を受け入れる病院を充実させる ・高齢者施設、市立病院の改善
高齢者施設 × 幼稚園	
子ども	みどり・環境
・働いている親、弱い親にとっても子育てしやすい環境にしたい ・人口に見合った保育環境の充実を ・遊べる環境を充実させたい ・幼稚園を増やしたい ・子供達が学べる動画配信 ・フリーターやひきこもりに対し、若いころから働く大切さを伝えたい	・老若男女が遊べる場の充実 ・大きな公園を横につなぐ
拠点	観光
・東京・横浜と連携して大きな施策を ・マンション住民が町会に入れないため、交流できるよう地域を横につなぐ	・東京と横浜の通過点にしない、文化都市にしたい
CMが重要！	
協働・行政サービス	その他
・ライフステージごとの行事やサービスにアクセスしやすくしたい→情報を知る機会を充実させたい ・町会を活用・活性化させたい	・市営住宅の充実 ・新住民と古くから住む人がコミュニケーションが取れる ・住みたい区、買いたい区に！

(川崎区)

午後の意見交換の概要

4つのテーマに分かれた意見交換

①自転車利用環境の向上と交通安全対策 ・ 駅近くの自転車が減←バス（横の動きも向上） ・ JR 川崎駅の各々動線をより安全に ・ マナーを学ぶ →子どもから親（母）へ伝える教室 ・ 放置自転車→駅だけではなくバス停周辺も多い →バス停周辺にもモラル向上の呼びかけを ・ ちょい停め駐輪をする人に向け、市が商店街と協力して呼びかける	③総合的な子ども支援の推進 ・ 市の保育園少ない（認可外は高い） →市の支援で、→大企業・工場の保育所の活用 →認可外の保育料の差を埋める ・ 小児医療（小学校まで）→負担金制度 お母さんも安心して働ける環境を！ ・ あそべる場が少ない→学校の利活用 ・ 放課後の居場所←保育士の資格をもった教育系の学生の活用を
②高齢化の進行と地域コミュニティの活性化 ・ コミュニティって何？→地域社会・行政と人材的つながり ・ 行き先 × 担い手 × 人が使いやすい環境づくり →高齢化は怖くない！ ・ 既に場・施設はあるので PR の改善をする →使い方の・説明を具体的に →ホームページを改善 →チラシは文字を大きく、わかる内容に ・ 地域を支える人材は意外と多い →はじめの一步講習を行う	④観光・文化資源など地域の魅力を活かしたまちづくり ・ 川崎の悪いイメージ→新しい良いイメージに改善したい ・ 競輪を良いイメージで PR・活用する ・ 臨海部を活用→アクセス向上 ・ つなぐ（世代、場所） ・ 健康づくりにつながるイベント ・ 声を出していく PR→マンパワーを有効活用！

高齢者の知恵を
若い世代に活用

元氣な高齢者を増やそう

(川崎区)

午後の議論の傾向

【自転車】自転車利用の問題に対して、公共交通（バスなど）を活用することで駅に集中する数を減らすこと。自転車のマナーが悪い問題に対して、マナーを喚起する手段を充実させること。放置自転車の問題に対して、商店街などの民間事業者との連携を進めることなど、自転車に関する議論が中心となった。また、JR 川崎駅のバス、歩行者、自転車の動線の整理が必要という提案が挙げられた。

【高齢者】地域に必要なサービスや取り組みや場は、知られていないがあるということが確認され、それをいかに PR していくか、活用するかという議論があった。地域に関わりたい人材は意外と多く、そうした人材をいかに地域につなげていくかということが議論された。

【子ども】子育て層が安心して働きながら子育てができるよう、認可外の保育園への補助を通して認可保育園並みの負担に抑えること、小児医療を充実させることなどが議論された。遊べる場が少ないという問題に、学校の活用や、その場の運営に関わる人材として教育系の学生の活用が挙げられた。

【拠点・まちづくり】川崎の悪いイメージを、良いイメージに変えたいという議論があり、既存の資源をうまく活用していくこと、資源同士をつなぐなどのアイデアが出された。また、区民が地域の様々な場に積極的に訪れることで、健康づくりにつなげるという議論もあった。

4つのテーマを横断する傾向

・無いと思ったら実はあったという気づきが多く見られた

→いろいろなものが知られてないということが課題

→どうやって PR していくのかを考えることが大事

（通常の広報だけでは無関心な人に届かない。市民の力で声を出していくことが大事）

・無い物をつくるのではなく、既存の資源を活用することが大事

→イメチェンすること × 点在する資源をネットワークすること

・まちの良いところ × 高齢者→健康づくり（元気な高齢者が多いまち）

・地域の人材を求める人とつなぐことが大事

・元気で知恵のある高齢者→子ども・子育てする親の支援に

・子どもへの教育→母親（家族）へのマナー教育に

コミュニケーション力を高めよう！

午後の意見交換の流れと解決アイデア

(川崎区)

■グループ 1 自転車利用環境の向上と交通安全対策

●議論の流れ

- ・ JR 川崎駅の自転車集中や動線の錯綜の課題、自転車のマナーや放置自転車の課題、駐輪場確保の課題などについて話した。
- ・はじめに、JR 川崎駅への自転車集中に対しては、バスの利便性向上により、公共交通の利用を促進し、駅への自転車の集中を緩和する提案があった。また、JR 川崎駅のバス、歩行者、自転車等の動線が錯綜しているため、利用者や関係者の声を聞きながら、中長期的に見直していくべきという意見があった。
- ・自転車のマナーアップについては、大人のマナーが悪いという問題に対し、子どもからマナー啓発していこうという意見があった。具体策として、自転車販売店などと協力し、子ども向けの自転車教室を開催するアイデアなどがあった。
- ・放置自転車対策については、駅から離れたバス停周辺などでも放置が目立つため、看板設置などによるマナー啓発に関する意見があった。
- ・また、今後の駐輪場整備や放置自転車対策について、市のイニシアチブのもと、警察や民間事業者（商店街や企業）との連携体制を築くべきという意見があった。

●解決アイデア

- ◎公共交通（バスなど）の利便性を向上させることにより、駅に集中する自転車を減らし、人にやさしい駅前にしよう（シール投票数 3 票）
- ◎利用者、事業者の声を聞きながら、錯綜している JR 川崎駅周辺のバス、歩行者、自転車の動線を改善する計画をつくろう（シール投票数 12 票）
- ◎自転車の購入などをきっかけに子ども向けの自転車教室を開き、子どもからお父さん、お母さんに自転車マナーを伝える仕組みをつくろう（シール投票数 4 票）
- ◎放置自転車撤去の強化とともに、駅周辺以外でも放置が目立つバス停周辺などに看板を設置しマナーを喚起しよう（シール投票数 1 票）
- ◎市の方針として、放置自転車対策や交通安全の推進を打ち出し、警察や民間事業者（商店街や企業）との協力体制をつくっていこう（シール投票数 6 票）

■グループ 2 高齢化の進行と地域コミュニティの活性化

●議論の流れ

- ・様々な支援が必要な高齢者が増加する中で、地域包括支援センターが重要な役割を果たすのではないかという意見から話し合いが始まった。ただし、現状では、その存在の認知や利用が一部の人たちに限られており、利用促進を図ったほうが良いという意見が共有された。利用促進には、まず PR 方法の工夫があげられたが、一方で、本当に利用が必要な方は、一人ではどうやって一歩を踏み出せば良いかわからない、説明を聞いても難しく今後利用につながらない方たちであり、既存施設・サービスと要支援者をマッチングする仲介人材・サービスの整備・充実の必要性について話した。

(川崎区)

- ・ 仲介人材の育成、仲介サービスの仕組みづくりの最初のステップとしては、何か役に立ちたいと思っている若い世代や、何か地域活動に関わりたいと思っている人を発掘し、一歩を踏み出すきめ細かい支援をすることではないかという議論となった。そのためのアイデアとして、若者向けの講習機会や活動体験の充実や、ちょっとしたお手伝いがしてもらえる・お手伝いができる身近な助け合い活動を推進するマッチングリストの作成などの意見が出された。

●解決アイデア

- ◎今ある施設（まちの縁側、地域包括支援センター等）の使い方を分かりやすく、具体的に伝えるチラシづくりや、ホームページを見やすくするなど、広報方法を改善しよう（シール投票数 20 票）
- ◎「手伝ってほしいことリスト」と「手伝えることリスト」を作成し、実際に助け合える状況と、人の心と心がつながる状況をつくろう
- ◎実は結構多い「地域で何かしたい」と思っている人が第一歩を踏み出すきっかけをつくるための「テーマ別講習」や「はじめの一步講習」をはじめよう（シール投票数 6 票）

■グループ 3 総合的な子ども支援の推進

●議論の流れ

- ・ 共働き世帯が増える中、子育てにおける家庭への金銭的・時間的負担を背景にした認可保育園数の課題、医療費や給食の課題や、子どもの居場所などについて話し合った。
- ・ 認可保育園は需要に対し供給数が少なく、また認可外の保育園は費用が高く、うまく活用できていないことについての意見があった。これらに対しては認可外の保育園への助成による園及び利用者の負担軽減をめざすことや、区内の大企業や工場等の敷地内に保育施設を併設することなどがアイデアとして出された。
- ・ 小児医療費について、東京都が中学生まで無料（実際には行政により異なる）であることを引き合いに、市内での受給対象年齢の引き上げを求める意見があった。ただ、単純な引き上げは現実に厳しいことから、親の収入や子どもの年齢等に応じた、段階的な負担制度を設けるなどの方法で、負担を軽減すべきという意見もあった。
- ・ 中学校給食の導入についても話し合われた。家庭で弁当を用意する負担や栄養バランスへの心配など、特に共働き世帯を意識した発言があり、小学校と比較して費用が高いものであっても利用したいという意見があった。
- ・ また、学童保育の充実や、町内会との連携等による地域での子どもの見守りなど、子どもの居場所づくりについてのアイデアが出された。公園が近くにない、ボール遊びの禁止といった制限があるといった課題も出され、学校の校庭や、使われていない土地の利活用を求める意見があった。
- ・ （主に教育系の）学生や、地域にお住まいで保育士の資格を持っている人など、人材の活用による見守りに関する意見もあった。

●解決アイデア

- ◎認可外の保育園に補助を出し、民間・川崎市双方の保育料の差を埋めよう（シール投票数 13 票）
- ◎川崎市から支援することで、大企業や工場に保育施設を作る働きかけをしよう（シール投票数 1 票）
- ◎学校の校庭や使っていない施設・広場を有効利用し、子どもが遊べる場所を増やそう（シール投票数 5 票）

(川崎区)

- ◎収入や年齢に応じた負担制度を作り、小学生までの医療費の負担を減らそう（シール投票数 2 票）
- ◎今までのサービスに加え、教育系の学生や隠れた保育士資格者を使って、子どもの放課後の居場所を確保しよう！（シール投票数 5 票）

■グループ 4 観光・文化資源など地域の魅力を活かしたまちづくり

●議論の流れ

- ・川崎市の地域資源がどんなものかを参加者全員でイメージし、共有しながら話し合った。
- ・その結果、ほとんどの参加者が「川崎大師」や「臨海部」をイメージした。
- ・イベントや地域資源を知る機会づくりをはじめとする「PR」に議論が集中した。市民に伝えたい情報と市民以外に伝えたい情報を分けることや、情報発信の媒体の種類について、「紙面」「ウェブ」「直接の声かけ」など効果的に情報を届けられるように整理して発信することが大切であるという意見があった。
- ・また、具体的な PR の方策として、ストリートミュージシャンとのコラボレーションや、「川崎愛選手権」、「川崎情報通認定制度」の導入など、ユニークなアイディアも活発に出された。
- ・「川崎のイメージ」づくりに関しては、従来の工業地帯や競馬等のギャンブルの悪いイメージがあること、川崎自体の知名度が低い問題について共有した後、「女性がデートで行きたくなる施設の充実」や「悪いイメージをあえて活用し、見せ方を工夫することで良いイメージに転換していく」などのアイディアが出された。
- ・地域資源へのアクセスの悪さに対しては、子どもと高齢者をつなぐことを目的としたツアーの設定など、様々なライフスタイルに応じたパッケージにして構築できると良いという意見もあった。
- ・地域の人が集まるイベントの継続的な開催も課題にあげられたが、市が担い手を育成し、実際の運営は市民が行うことで負担を減らすとともに、参加者同士につながりが生まれることや、高齢者の健康づくりにつながるなどのメリットに注目しながら推進できると良いという、特徴的な意見もあった。

●解決アイディア

- ◎資源やイベントの PR は、「市民が知る」「市民以外が知る」ことに分けて、「紙面」「Web」「直接声をかける」などの手法を選択し、効果的に実施しよう（シール投票数 16 票）
- ◎既存の工場やギャンブルなどの悪いイメージを払拭、活用し、新しい「川崎」のイメージづくりをしよう（シール投票数 1 票）
- ◎川崎のイメージを裏返して明るいイメージに変えるための「競輪」の PR と「競輪場」の施設の利用をしよう
- ◎臨海部の特性を生かして、人が気軽に集まれるような資源として活用を図ろう（シール投票数 6 票）
- ◎子どもと高齢者をつなげるツアーやイベントなどを実施し、互いに支え合う関係をつくろう（シール投票数 1 票）
- ◎友達が増えたり、歩く機会などの健康づくりにつながるイベントを継続し、健康な高齢者づくりにつなげよう（シール投票数 4 票）

ワークショップ風景写真

(川崎区)



(2) 幸区

午前の意見交換の概要

テーマ① 好きなところ、自慢したいところ ⇄ テーマ② 気になるところ、なおしたいところ

午後の4テーマに関する意見	良 ←	→ 悪
①災害対策	・ 平坦な道が多い ・ 治安が良い	・ 道が狭い、住宅地の道が入り組んでいる ・ 車優先 ・ 防犯
②高齢化	・ 医療機関が充実	・ 高齢者が安心して歩けない ・ 情報弱者への対策必要
③子ども支援	・ 子育て世代が増えている	・ 保育園不足 ・ 小学校の学級数が偏っている
④拠点整備 コミュニティ	・ 交通の便が良い（東京・横浜・空港） ・ お店、駅へのアクセスが良い ・ 町会、PTA などが元気 ・ 人懐っこい古くからの住民が多い ・ 新拠点ラゾーナ	・ 区内の移動が不便 ・ 区役所へのアクセスが悪い ・ 新しいマンションは町会加入が少ない ・ 昔ながらの商店街に活気がない ・ ミューザをもっと活用（市民に聞く）
その他のテーマ	・ 川辺の資源・自然 ・ 歴史（二ヶ領用水、加瀬山） ・ 夢見ヶ崎動物公園	・ ホームレス・ゴミの問題 ・ 川崎市民としてのアイデンティティを！ ・ ホテルがない、大型スーパーがない

午前の議論の傾向（4つのテーマ別に）

【災害対策・交通安全】 幸区は平坦な道が多いが、一方で道が狭く、住宅地の道が入り組んでいること、車優先で歩行者にとって安全ではないという印象であることが挙げられた。また、治安が良いという意見と、防犯に問題があるという対立した意見が寄せられている。10年後に向けて、車優先から歩行者や車椅子にもやさしい環境にすること、自転車のルール・マナーの徹底や自転車道の整備などが挙げられた。また、治安を良くするために、防犯カメラの充実など犯罪の抑止力を高める工夫が必要というアイデアが寄せられた。

【高齢化】 医療機関が充実しているというのが良いところとして挙げられ、交通問題と連動して高齢者が安心して歩けないという問題、情報弱者への対策が必要という意見が挙げられた。10年後に向けて、高齢者や障がい者が住み良いインフラの必要性、バス路線の充実（フリー降車区間を設ける、マイクロバスを走らせる）、わかりやすい路線図情報を提供するなどが挙げられている。また、地域での見守りが大切ということも挙げられた。

【子ども支援】 良いこととして子育て世代が増えていることが挙げられ、一方保育園不足や小学校の学級数が偏っていることなどが問題として挙げられた。10年後に向けて、出生率を上げるための様々な支援の必要性が挙げられた。具体的には、駅近くの保育施設の充実、補助金や医療費の補助などが挙げられている。

(幸区)

テーマ③ テーマ 3: 将来(10 年後) 私たちのまちを どう良くしていきたいか出し合おう

防犯・自転車	福祉・医療
・車社会→歩道・自転車 ・治安を良く ・自転車のルール・マナーを ・歩道→車椅子にも 防犯カメラ充実 犯罪の抑止力 アップ 条例	・地域で見守り ・高齢者、障害者が住みやすいインフラ
子ども	みどり・環境
・出生率を上げるための支援を 駅近くに保育の施設を ・子どもに補助金少ない ・小児医療費助成の対象年齢の引き上げ 駅近くに 保育の施設を	・公園を増やしたい ・マンション建設をやめてみどりを ・多摩川の水辺を活かす ↓ ・エコ都市化 シンボルとなる みどりの公園を
拠点	観光
・道路を整備 ・バス便を充実 ・南武線特急 ・踏切削減(高架化) ・新川崎駅周辺 ・ミュージアは全国的にも優れている バスの降車区間など市バス にマイクロバス、 わかりやすい路線図	・音楽のまちの実感ない →ミュージアを市民が活用、市民招待で 良さを実感したい ・夢見ヶ崎動物公園をアピール ・ホテル少ない←外から来た人向け
協働・行政サービス	その他
・市民間のコミュニケーションが少ない(新旧住民) ・手続きを駅前で ・70 以上の高齢者→PTA に協力→子ども見守り ・川辺で利用できる施設 挨拶したい...	・共通して PR が悪い ・外国人とトラブルがない→融合

【拠点整備・コミュニティ】交通の便が多いという意見が多い反面、区内の移動が不便という意見も多く寄せられた。また、お店や駅へのアクセスが良いが、区役所へのアクセスが悪いことも挙げられている。コミュニティに関しては、町内会・自治会などが元気で古くからの住民が多い反面、新しいマンション住民は町会への加入が少ないことが挙げられた。新拠点のラゾーナはにぎわっている反面、昔ながらの商店街に活気がないこと、ミュージアをもっと区民に活用される資源とすべきという意見が寄せられた。10 年後に向けて、【高齢化】に記載したようなバス路線の充実や、南武線の特急化、鉄道の高架化等による踏切の削減、道路の改善が挙げられた。ミュージアを有した区であるが音楽のまちであるという実感が少なく、区民への招待をするなど区民の利用を高めるようにすること、夢見ヶ崎動物公園を観光資源としてアピールすること、外から来た人に向けた宿泊施設の充実などが挙げられた。コミュニティについては、新旧住民のコミュニケーションの機会を増やすことなどが挙げられた。そのために子どもやペットを通したコミュニティづくり、高齢者が PTA に協力した見守りなどのアイデアが出された。

(幸区)

午後の意見交換の概要

4つのテーマに分かれた意見交換

①災害対策や交通安全など安心安全	③総合的な子どもの支援の推進
・災害対応 → 情報伝達 ← 複数の手段持ち必要な人に届ける。情報弱者にも届く - 防犯 - 防災放送を聞きやすく ・地域組織が連携し情報共有 ・災害発生 → シミュレーション ・自転車ルール	・ 高齢者が地域で連携 ↓ - 遊べる場 公園みんなで使う ・ 小児医療の補助 ・ 学童保育を充実させる ・ 近所の方の預り協力、市立への協力 町内会自治会に若い世代が積極的に参加
②高齢化の進行と誰もが生き生きと暮らせる	④駅前拠点整備と新たなコミュニティづくり
・ 元気な高齢者が支援側に → ビジネス化 - 講師としてスキルを伝達 ・ すでにある事業を PR ・ 人材バンク ・ ワンストップサービス ⇄ NPO 立ち上げる ・ 市区との協働	駅 → シンボル・モニュメントの魅力アップ コミュニティを充実させる場 施設 駅に行政サービス 共通の趣味などでコミュニティをつなぐ

(幸区)

午後の議論の傾向

【災害対策・交通安全】災害対応や、防犯には、情報伝達が大切であり、そのためには複数の手段を持ち、情報弱者にも届くよう徹底が必要で、防災放送ももっと聞きやすくという意見が挙がった。情報伝達の強化に向けては、地域組織が連携し情報を共有すること、災害発生時のシミュレーションを徹底することなどのアイデアが寄せられた。また、自転車のルール・マナーは地域で見守る人、声をかける人が大事というアイデアが出た。

【高齢化】元気な高齢者が支援側につける環境が大事という議論になり、地域ビジネスや、スキルのあるシニアが講師となること、人材バンクなどのアイデアが寄せられた。また、既にある事業をもっとPRしていく必要があるという意見、NPOを立ち上げ、介護支援情報のワンストップ・サービスの窓口をつくるといったアイデアが挙がった。

【子ども支援】高齢者が地域で連携し、子どもの支援に関わることが挙げられた。遊べる場、公園をみんなで理解し使えるようにすること、近所の方の預かり協力などが挙げられた。また、学童保育の充実、小児医療の補助の必要性も挙がった。また、町内会・自治会に若い世代が積極的に参加することも大事という意見が挙げられている。

【拠点整備・コミュニティ】駅にシンボルやモニュメントなどを設けて魅力アップすること。駅に行政サービスを設けること、駅にコミュニティを交流させる場や施設を設け、共通の趣味などを通して新たなコミュニティを育むなど、駅を中心にした地域の交流～コミュニティづくりの機会を育むアイデアが寄せられた。

4つのテーマを横断する傾向

・情報がきちんと届くことが大事

→既にある情報が区民に伝わっていないという気づきが複数のグループにあり、それを伝えるために複数の情報手段を持って区民に届ける体制が必要というアイデアが寄せられた。

・みんなで地域の人も協力して実践すること

→古くから地域に住む人と新しい住民が交流し、コミュニティを育むことが、高齢者の問題や子ども支援などテーマを横断した課題解決につながるというアイデアが寄せられた。これは各区のワークショップで共通する話題でもある。

→また、新旧のコミュニティだけではなく、趣味などでつながる新たなつながりづくりの可能性が寄せられている。

午後の意見交換の流れと解決アイデア

(幸区)

■グループ 1 災害対策や交通安全など安全安心なまちづくり

●議論の流れ

- ・防災や防犯に関する情報共有、自転車などの交通安全について話し合った。
- ・防災や防犯に関する情報共有については、「手段と対象」「地域連携」について話し合った。「手段と対象」については、多様な伝達手段を用いるとともに必要な人、必要なエリアに情報が届くよう、システム化が必要という意見があった。一方で、ケーブルテレビや携帯電話、インターネットなどを介した情報が届かない情報弱者への情報伝達手段として防災放送の重要性も議論された。防災放送の音が拡散し、聞こえずらいという課題に対し、新技術の導入や、数を増やしてはどうかというアイデアがあがった。
- ・「地域連携」については、学校と町会・自治会の情報連携が必要との意見があった。また、災害弱者の情報を地域で共有し、対応の準備をすることも大切だという意見もあった。
- ・交通安全については、自転車の話題が多かった。ルールが重要という意見があった一方、車道の通行が危ないなど現状の道路環境を鑑みると無理のあるルールもあるという意見があった。その後に、ルールは大切にしながらも、思いやりの気持ちで譲り合うマナーの方が重要であるという、意見があった。

●解決アイデア

- ◎個人が行動を判断できるように、防災や防犯に関する複数の情報伝達手段を整え、必要な場所や人に情報が届くシステムをつくろう（シール投票数 14 票）
- ◎情報弱者にも情報が届くようにするために、新技術の導入や発信場所の増加により、防災放送を聞こえやすくしよう（シール投票数 1 票）
- ◎町内会や学校などの地域組織が連携して、地域情報（犯罪や災害の情報、災害弱者の方への対応など）を共有しよう（シール投票数 1 票）
- ◎水害、火災、津波など、災害発生時にどこに逃げるかなど、行動を想定しておくことが大切
- ◎自転車のルールやマナーが守られるよう、地域で見守ったり、声をかけるようにしよう（シール投票数 6 票）

■グループ 2 高齢化の進行と誰もが生き生きと暮らせる地域づくり

●議論の流れ

- ・「高齢化の進行」に伴う課題、「生き生きと暮らせる地域づくり」について話し合った。
- ・「高齢化の進行」に伴う課題については、支援対象の高齢者等の把握が最初のステップとして大切であるが、個人情報保護法等が大きなハードルとなっており、地域における活動を阻害しているという議論が行われた。個人情報の効果的かつ柔軟な活用環境の再整備を長期的課題として意識しながらも、孤立死問題、独居高齢者の生活支援、老老介護・在宅介護問題等の解決は急務であり、市民レベルでできることから早急に取組を進めなければならないという問題意識が共有された。
- ・上記の取組と「生き生きと暮らせる地域づくり」の推進を兼ねて何ができるかという話し合いに展

(幸区)

開し、リタイヤ層や元気な高齢者を、地域課題を解決する人材として活用していくことが大切であるという話になった。

- ・そのための方策として、具体的には、高齢者支援活動のコミュニティビジネス化や、青少年育成・子育て世帯支援の一環としての高齢者の教育・子育ての場への参加促進、地域活動の人材リソースとして人材バンクの作成、そして、高齢者の地域参加、活動推進のきっかけづくりとしての幸区の既存事業（「健康長寿推進事業」「ふれすこ事業」等）の活用などのアイデアが出された。

●解決アイデア

- ◎介護支援制度の説明から NPO の設立まで、高齢者支援に係る制度活用や活動推進をわかりやすく支援してくれる、ワンストップ窓口があると良い
- ◎元気な高齢者が高齢者や助けが必要な人を支える活動をボランティアではなくコミュニティビジネスとして行う（シール投票数 21 票）
- ◎多くの経験やノウハウを持った高齢者が、保育園や小中学校の子どもたちや子育て中のお父さん・お母さんに講師として教える機会をつくる（シール投票数 2 票）
- ◎支え合い活動、生きがいづくり、介護予防活動など、市民が活動を進めたいときに、協力者がみつかる人材バンクをつくる（地域には色々なノウハウを持った人がいる！）（シール投票数 1 票）
- ◎「健康長寿推進事業」や「ふれすこ事業」など、既に行っている、市・区の実践を市民に伝えるために、情報提供・PR の方法を工夫する（シール投票数 1 票）
- ◎様々なテーマの施策・活動が連携して取組が進めやすくなるように、市民・市・区の実践体制を強化する！

■グループ 3 総合的な子ども支援の推進

●議論の流れ

- ・「子育てへの補助の必要」「学童保育の不足」「子どもの遊び場の不足」の 3 点について主に話し合った。
- ・「子育てへの補助の必要」については、小児医療費免除対象年齢の引き上げや、中学校給食の実施といった金銭面での課題や、認可保育園の不足といった、家庭への負担につながる事柄に対しての行政からの補助を求めるものだったが、職員からの財政に関する説明（ex 小児医療費の助成を小 6 まで拡大する場合、年間多額の予算が必要）を受け、所得制限による段階的な補助など、より現実に対応策が話し合われた。
- ・「学童保育の不足」については、多くの方から同意見があがった。小学校のわくわくプラザは一定数あるものの、遅い時間まで開いていないことや、キャパシティーの問題などがあるため、もっと数が必要であるという意見があった。また、年間プログラムが変わらないため、ある年齢を過ぎた子どもは飽きてしまうという意見もあった。隣近所や地域での助け合いによってある程度解消する問題でもあり、世代を超えた交流が同時に必要となってくるという意見があった。
- ・「子どもの遊び場の不足」については、大きい公園が近くにないことや、ボール遊びなどが禁止事項となっている公園が多く、子どもが伸び伸びと外で遊べる環境が少ない現状を変えたいという意見があった。公園を使うのは老若男女お互いさまであり、地域の人と知り合い、お互いに理解し合うことで解消される問題も多いのではないかという意見があった。

(幸区)

●解決アイデア

- ◎子どももシニアもどちらも楽しめる公園にして、地域の人同士が理解し合い使う場にしよう（シール投票数 6 票）
- ◎地域の中での世代を超えた交流を実現するため自治会・町内会の若い世代が積極的に参加できるようにしよう（シール投票数 9 票）
- ◎所得制限など部分補助によって小児医療費の補助をしよう（シール投票数 9 票）
- ◎学童保育を充実させるために、地域・行政共に助け合っていこう（場所・リタイアシニアを含めた人材・助成金…etc）（シール投票数 4 票）

■グループ 4 駅前拠点整備と新たなコミュニティづくり

●議論の流れ

- ・ 駅周辺の利便性向上に関心のある参加者の間で、主に川崎駅周辺の整備やコミュニティづくりについて話し合われた。
- ・ ランドマークとしての駅の価値を高めるために、人の集まる商業施設、ホテルなどの多機能な施設の集積が重要だという意見があった。また、その中で、シンボルツリーや景観的に配慮した建物のデザインに配慮することが大切という意見があった。
- ・ 子どもや高齢者の溜まり場がないという課題から、老若男女問わず気軽に集まれる場を望む意見があった。
- ・ また、既存のスペースを有効に使うことが大切という意見があり、ミューザの活用や町会の建物を自由に使えるようにすることも大切という意見もみられた。
- ・ さらに、利便性の高い駅とするために、行政サービスの出張所を設けながら、市民と行政が近い位置で接する機会づくりを求める意見もあった。
- ・ 新たなコミュニティづくりに関しては、きっかけや情報が足りないため、どんなコミュニティがあるかわからないということが課題としてあげられたが、共通のテーマを広げることでコミュニティを広げることが課題解決のヒントとしてあげられた。

●解決アイデア

- ◎住んでいる人、訪れる人たちのシンボルとなる「駅」にシンボルツリーを植えるなど、魅力的なしつらえを施そう（シール投票数 7 票）
- ◎人が集まる場所（駅周辺など）に行政サービスと住民の利用が混在した工夫がある施設を設置しよう（シール投票数 12 票）
- ◎既存の施設や空間を活用して多様な世代の人が交流できる開かれた拠点を駅前につくろう（シール投票数 4 票）
- ◎新しくコミュニティに入るための情報やきっかけづくりとして、「子ども」「動物」「共通の趣味」などのテーマを大切にしよう（シール投票数 1 票）

ワークショップ風景写真

(幸区)



(3) 中原区

午前の意見交換の概要

テーマ① 好きなのところ、自慢したいところ ⇄ テーマ② 気になるところ、なおしたいところ

午後の4テーマに関する意見	良 ←————→ 悪
①防災防犯	・治安が良い ←————→ ・大雨による水害が心配 ・街灯が少ない ・等々力緑地 夜が暗い
②自転車	・平地が多く自転車の移動範囲が広い ←————→ ・交通マナーが悪い！ ・放置自転車多い（ブレーメン） ・道が狭い！（府中県道の歩道） ・一方通行が多い
③高齢者	・デイサービスが多い ・病院・障害者施設が充実している ・高齢化が進み地域の担い手が不足
④子ども	・子どもが多い ・子育てしやすい ・ベビーカーで移動しやすい（平地） ・等々力緑地（遊び場） ・保育園が多い ←————→ ・子育て支援をもっと充実 →子育て NPO の支援を！ ・子育て支援センターで絶対数のフォローができていない ・保育所・学校の不足（人口増）

午前の議論の傾向（4つのテーマ別に）

中原区の特徴として4つのテーマ以外で多く挙げられていたのは、武蔵小杉の再開発による発展や、ブレーメン商店街などまちに活気があり、住みたいまち No1 と言われていることなどが良く、その反面、インフラの整備と開発のバランスが悪く、道の渋滞や事故の増加、人口増加による学校や保育施設不足などが問題として挙げられた。また、交通の便が良い反面、区内の移動環境が悪いという意見。等々力緑地やニヶ領用水などのみどり、音楽のまち、スポーツが盛んなまちであること。昔はイメージが悪かったが、今は良くなったという意見や、悪い意味で東京周辺のまちの1つと捉えられているのではという意見もあった。

【防災・防犯】治安が良いという意見がある反面、街灯が少ない（具体的には等々力緑地が夜が暗い）という意見が寄せられた。また、防災に関しては大雨による水害が心配という意見も出た。10年後に向けて、避難所の増設や耐震化が必要という意見が寄せられた。

【自転車】中原区は平地が多く、自転車で移動できる範囲が広いことが良いこととして挙げられた反面、交通マナーが悪いこと、放置自転車が多いことが問題として挙げられた。また、道が狭いという意見が多く、具体的には府中県道の歩道が狭いことが挙げられた。一方通行が多いという意見もあった。10年後に向けて、歩行者や自転車が安心できる道の整備の必要性や、自転車等のマナー向上について意見が寄せられた。

(中原区)

テーマ③ テーマ 3: 将来 (10 年後) 私たちのまちを どう良くしていきたいか出し合おう

防犯・自転車 ・避難所の増設・耐震化 ・マナーの教室 ・歩行者・自転車が安心できる道路	福祉・医療 ・障害のある人の地域参加 ・要介護の人が幸せに暮らせるまちに ・多世代が気軽に集まれる場が増える ・高齢者も集まることできる
子ども ・教育設備の充実→中長期的視野が必要 ・子育て支援強化 ・こども文化センターを地域の拠点に（子育て支援センターや NPO との協働を強化） ・遊べる公園を増やす ・中学校給食を（業者契約）	みどり・環境 ・ごみ置き場を路上ではないところに設置する
拠点 ・地区内の移動の不便を解消 ・地域限定高齢者向けのミニバス（徒歩 20 分） ・インフラ整備を急ぐ→都市計画推進 ・公共駐車場少ない→増	観光 ・オリンピックに向けて何かできないか ・江川せせらぎ遊歩道のような休める場を ・温水プール
協働・行政サービス ・集約した行政サービス→コンビニなどで実施 ・下町の良さも活かす	その他 ・区のことを住民がよく知ろう →いろいろな解決策につながる

【高齢者】 デイサービスが多いことや病院・障害者施設が充実していることが良いこととして挙げられ、一方で将来の高齢化が進むことへの不安が挙がった。10 年後に向けて、要介護になっても幸せに暮らせること、障がいのある方も地域参加ができること、高齢者も気軽に集まれる多世代交流の場が増えることなどが挙げられた。また、高齢者の地区内移動がしやすいように、地域限定のミニバスなどのアイデアも寄せられた。

【子ども】 子どもが多く、子育てしやすいこと、平地が多いのでベビーカーで移動しやすいこと、遊び場としての等々力緑地があることや、保育園が多いことなどが良いこととして挙げられた。問題点として、子育て支援をより充実させるために、その担い手である子育て NPO への支援を進める必要があるということや、子育て支援センターが子どもの絶対数に対してフォローできていないこと、武蔵小杉などの人口増加に伴い、保育所や学校が不足することなどが挙げられた。10 年後に向けて、人口増加に対応した施設の考え方は、中長期的な視野を持って保育施設から教育施設に切り替えるなど柔軟に変化させることが必要というアイデアや、こども文化センターを地域の拠点にすること、遊べる公園を増やすこと、子育て支援センターと子育て支援 NPO との協働を強化すること、中学校にも給食をという意見が寄せられた。

(中原区)

午後の意見交換の概要

4つのテーマに分かれた意見交換

①地域防災力の向上と防犯対策 ・自助・共助が必要 ・市民⇄行政 ・コミュニケーションが必要！ ↓ ・今の時代にあった手段を ・地域コミュニティを活かそう →夏祭り ・こども文化センター × 消防署 →場の活用 ・企業 × 商店街 →話し合いの場をもっとつなげる	③高齢化の進行と支えあいの体制づくり ・老人ホーム絶対数足りず →空き教室・子どもたちが交流できるホーム ・資金集め→ビジネス ・ヘルパーの賃金アップ →寄付（共感集める） ・元気な人、空き時間に声かけお話し（日常の）
②自転車利用環境の向上と交通安全対策 ・平坦な地形→自転車を利用しやすい ・道幅を広げられなくても段差をなくすなど、バリアフリー化したい ・マナーの向上→基本ルールを知る ・駐輪スペース→運用のしきみ ・商店街→空きスペース ・自転車のまち→楽しく利用	④総合的な子ども支援の推進 ・利用者のニーズに合った保育サービス ・子育て支援センターを核に親子と地域をつなぐ ・あそび場をどう確保するか 公園は安心して幼児が遊べない→広いスペース→学校の校庭？

(中原区)

午後の議論の傾向

【防災・防犯】 共助が大切ということで、夏祭りなどの新住民が参加しやすい入口となる行事の充実を通して、地域コミュニティを充実させようというアイデア。市民と行政とのコミュニケーションがもっと必要で、今の時代に合った手段（日頃は生活に役立つ情報を流し、有事に緊急情報を届けるメディアなど）を考える必要があるという意見。企業や商店街とも語り合いの場をもっとつなげていくことが大事という意見。こども文化センターや消防署を防災資源と捉え、町内会・自治会が一緒に防災訓練を行うなどの防災対策などが挙げられた。

【自転車】 安心して歩ける環境をつくるために、歩行者、バイク・自転車、車の分離やバリアフリー化など道を改善していく必要があるのではないかという意見。自転車マナーの向上を図るためにまずは区民が基本ルールを学ぶ機会をつくることが大事であるという意見。駐輪の問題については、通勤や買い物などの利用ニーズにあわせた運用のしくみづくりや、商店街や鉄道会社と連携した空きスペースの活用などを通して、楽しく安全に自転車を利用できるまちにしたいというアイデアが寄せられた。

【高齢者】 老人ホームの絶対数が不足してくることに對して、学校の空き教室などを活用し、子どもたちやペットと交流ができるような場づくりがあると良いというアイデア。ヘルパーの賃金を上げていかないと人材が不足するのではないかという問題に對して、実のなる木（梅など）の収穫物を地域で売って資金づくりをすることや、共感を集めた寄付集めなどの方法についても議論があった。また、元気な人が空き時間を利用して高齢者に声かけや傾聴をするような機会をつくるなどのアイデアも挙げられた。

【子ども】 利用者のニーズにあった（→安くて使いやすい）保育サービスの必要性が挙げられた。子育て支援センターを核に親子と地域をつなぐことが大切というアイデア。また、公園は大きな子どもが遊んでいると幼児が遊べないので、遊び場をどう確保するのか？という問題があり、学校の校庭を開放するなど、遊びの場づくりを考えていく必要があるという議論があった。

4つのテーマを横断するポイント

・コミュニケーションを改善することが大事 × 今の時代にあった方法を考えることが大事

→環境は整っているが、利用者のニーズと合っていないということや、情報があるのに、届いてないといったミスマッチが起きていることがそれぞれのグループから出され、今の時代にあった方法で、コミュニケーションを改善することが、テーマを横断して必要であることが確認された。

・課題解決に必要な3つの視点

①あるものの使い方を工夫すること、②考え方（意識）を変えること、③自助・共助の力を上げることという視点がグループ全体を通して挙げられた。

午後の意見交換の流れと解決アイデア

(中原区)

■グループ1 地域防災力の向上と防犯対策

●議論の流れ

- ・ 防災力、防犯力を高めるためには、一人ひとりの自助意識を高めると同時に、コミュニティによる公助の力を高める必要があり、そのため、「地域コミュニティの日ごろのつながりを強める」「防災・防犯資源となる公的施設と地域が協力する」「大企業や商店街など民間企業と地域が協力する」「市民と行政の日ごろからのコミュニケーションを進める」ことなどを話し合った。
- ・ 「地域コミュニティの日ごろのつながりを強める」ためには、これまで地域で行われている夏祭りの交流イベントなど、多くの人が集まる機会を活用し、隣近所が知り合いになることでコミュニティの結束を強めることが大切である。新しく移り住んで来た人たちを地域コミュニティに受け入れる声かけの工夫や、今の時代にあったイベントの実施方法などを取り入れる。また、そうした場で防災などの情報を伝えていくことが必要であるという意見があった。
- ・ 「防災・防犯資源となる公的施設と地域が協力する」ことについては、地域の身近にある消防署やこども文化センターなどの施設と協力し、共同で防災訓練を行うことや、災害時に活用できるスペースを確認することが大切である。その際、単独の町内会だけでなく周辺の町内会と一緒に取り組むのが良いという意見があった。
- ・ 「大企業や商店街など民間企業と地域が協力する」ことについては、区内の大企業や商店街などの民間事業者と地域が協力をして、災害時に協力しあえることや、グラウンドを避難場所に利用させてもらうといった企業の持つ資源の活用などについて話し合うことが大切である。その際、地域と企業が話し合う場を中原区がリードして設けていく必要があるという意見があった。
- ・ 「市民と行政の日ごろからのコミュニケーションを進める」ことについては、行政は防災や防犯の取組、さまざまな検討を行っているものの、その状況や内容は市民に十分届いているとはいえない。もっとお互いにコミュニケーションを取り合うことが必要である。例えば、さまざまな年代に届くよう紙媒体の回覧板やスマホアプリなどを活用し、いざというときに活用する情報網を整備し、身近なまちの情報や生活に役立つお得な情報などを頻繁に伝えていくことで、日ごろから情報を発信・受信する関係づくりをしていくのが良いという意見があった。

●解決アイデア

- ◎地域の防災資源になる消防署やこども文化センターなどと町内会が協力しあう。一緒に訓練したり、場所を有効に活用する。(シール投票数4票)
- ◎地域コミュニティの日ごろからのつながりを強める！夏祭りなどのイベントを活用し、情報発信をしていこう。誘い方や周りの町内会との協力など今の時代に合った実施方法を工夫する。(シール投票数8票)
- ◎市民・行政のコミュニケーションが必要！回覧板やスマホアプリで、災害時にも役立つ情報網をつくり、日常はまちの生活やお得情報を流し、日ごろから活用する

(中原区)

■グループ 2 自転車利用環境の向上と交通安全対策

●議論の流れ

- ・「自転車通行に係る道路環境」「駐輪施設の整備・運用」「自転車利用ルール・マナーの啓発」「商店街の駐輪対策」の大きく 4 つの話題で話し合った。
- ・「自転車通行に係る道路環境」については、平坦な地形で自転車利用がしやすい地域であるにも関わらず、道路事情が悪く、幹線道路等の歩道の再整備、歩道のない狭い道路の拡幅整備、自転車道や自転車専用レーンの新設など、ハード整備の必要性に関する意見があった。道路整備に関しては、中長期的な課題であることを共有した上で、比較的短期でやりやすい取組としてバリアフリー化による段差の解消や歩道路面劣化の改善など、今ある道路の最低限の改善を進めることが大切であるという意見があった。
- ・「駐輪施設の整備・運用」については、今ある駐輪施設が、一時利用したいだけなのに料金が高等、使いたいと思える運用・サービスが提供されていないという意見があった。利用者（通勤者、買い物客、子ども連れの親等）ごとに異なるニーズ（長時間止めたい、ほんの数分だけ止めたい、駐輪ラックの上段は体力的に使えない等）に応じた柔軟な運営・運用が望ましいという意見があった。
- ・「自転車利用ルール・マナーの啓発」については、「乗り方」「置き方」双方のマナーを、特に子どもを持つ親がしっかりと認識する必要性についての意見があった。また、マナー啓発の前提となる道路交通法に基づく基本ルールの周知が最初の一步であるという意見もあった。
- ・「商店街の駐輪対策」については、駐輪場の新設が望まれるとしながらも、例えば、銀行・公共施設などが休館・休業時に駐輪スペースを開放するなど、商店街のちょっとした遊休スペースの有効活用を商店街関係者が協力して進めていくアイディアが出された。
- ・このほか、現在、自転車は「危険な乗り物」という評価への偏重傾向がみられることから、「楽しい乗り物」であることを再評価することも必要という視点が出された。この再評価を行うことで、自転車マナーを積極的に楽しく自主的に学ぶ市民が増えるのではないかという意見が出された。

●解決アイディア

- ◎車・バイク・自転車・歩行者それぞれが安全に通行できる動線づくり（分離）という視点で、道路の改善やバリアフリー化を検討する（シール投票数 4 票）
- ◎自転車が安全に通行しやすい道路の計画を考えていくだけでなく、道路を使う自転車利用者のマナーの向上も図る
- ◎自転車利用者のマナー向上の前提となる「基本ルール（道路交通法）」を勉強する機会を積極的につくる（シール投票数 7 票）
- ◎利用者（通勤者、買い物客、子ども連れの親等）ごとに異なる駐輪場の利用ニーズにあわせて、駐輪場の運営の仕組みの見直しや新たな仕組みづくりを行い、使いたいと思える駐輪場を増やす（シール投票数 5 票）
- ◎自転車の置き方のマナーを守りたい多くの商店街利用者が、安心して駐輪できる場所を増やすために、商店街・鉄道事業者・市が協力して、空きスペースの有効活用を図る（シール投票数 1 票）
- ◎市民ぐるみで自転車の利用環境や利用者のマナー意識の向上を図るとともに、自転車を「楽しめる乗り物」として再評価する取組を進め、「自転車のまち・川崎」と言われるようになる（シール投票数 2 票）

(中原区)

■グループ 3 高齢化の進行と支え合いの体制づくり

●議論の流れ

- ・ 認知症の高齢者や老人ホームが足りないことや、介護の担い手不足などの課題、解決策となる具体的なアイデアなどについて話合った。
- ・ 老人ホームが不足している課題に対しては、学校の空き校舎や空き教室などの資源を活用し、保育園などの子どもの施設と併設することで世代間交流を促進することや、資金不足に関しては老人ホーム内で梅の木を育てるなどのビジネスモデルを確立すること、税制優遇措置などにより対応するなどのアイデアが出された。
- ・ 介護の担い手不足については、賃金を上げることが人材確保に最も有効な手段であることを前提としたうえで、共感を集める寄付を募ることや、寄付を集めるために情報発信やメリットを付加するなどの具体的なアイデアが出された。
- ・ また、専門家の確保だけに限らず、元気な高齢者や主婦、学生等が自分の時間にあわせてボランティアベースで声かけなどを行うこと、地域で見守りができる体制づくりが大切という意見があった。

●解決アイデア

- ◎今後増えていく高齢者のために、空き校舎や空き教室を活用して高齢者と子ども、動物が交流できるホームを充実させよう（シール投票数 9 票）
- ◎老人ホーム等の施設運営の資金集めのためにホーム内で梅の木を育てるなどのビジネスができるようにしよう（シール投票数 5 票）
- ◎介護等の担い手（ヘルパー）の賃金を上げることが大切、情報発信や勉強会を開催して共感を集めて寄付を募ろう
- ◎元気な高齢者、主婦、学生など、自分の時間にあわせてボランティアとして「声かけ」や「お話」ができる仕組みをつくろう（シール投票数 6 票）

■グループ 4 総合的な子ども支援の推進

●議論の流れ

- ・ 「利用者のニーズに合った保育サービス」「地域と子育て」「子どもの遊び場」の主に 3 点について話合った。
- ・ 「利用者のニーズに合った保育サービス」については、子育て中の親の視点から、子育てする上で、完全に保育サービス等に預けるか、自分でみるかの二択しかない、という話から始まった。共働きのお母さんの多くは、仕事もしなければならないが、子育てにも時間をかけたいという考えを持っており、例えば 3、4 時間だけ子どもを預けるサービスが家の近くにあれば使うが、実際にはそのようなものがあまりないため、二択になってしまっている。特にパートタイムで働いている場合、稼いだお金＝保育料となって消えてしまう場合も多く、保育料を稼ぐために働くという矛盾が起こっている現状があるという意見があった。この状況に対処するアイデアとして、時間や費用、自宅からの距離等、子育て世帯のニーズに合った保育サービスの提供があげられた。近いサービスとして「子ども子育て支援新制度」で重視されている「認定こども園」があるが、幼稚園側にとつてのメリットが少なく、浸透するかどうか不安があるという意見もあった。
- ・ 「地域と子育て」については、地域の中での親と親、子どもと親、子どもと地域のつながりがどれも

(中原区)

重要だが、コミュニケーションを取れる場も少ない中、うまくつながれていない現状があるという意見があった。

- ・一例として様々な種類の子育てサークルがあり、一つの受け皿として機能するかもしれない、という意見があったが、その子育てサークルの活動を円滑にするため、活動できる場を広げることや、ニーズに合った情報の提供を進めること、運営をサポートすることなどが必要であるという話があった。他にも、地域との連携拠点として、各地に点在する「こども文化センター」及びそこで活動する「子育て支援センター」がうまく機能するのでは？という話になった。また、子育てに際し孤立してしまっている親子も多く、地域でのフォローが重要であるという意見があった。ただ、精神的な理由で孤立してしまっている場合、開かれた場に出ていくこと自体が難しい場合も多く、柔軟に対応する必要性もあるという話になった。
- ・「子どもの遊び場」については、“子どもが” 遊べる場、公園等が少ないという話から話し合いが広がった。公園は多くあっても、シニア世代が使っていたり、ボール使用の禁止をはじめとした様々な制約があったりと、子どもが遊べる環境になっていない場合が多く、この是正のために、子どもが遊びやすい公園づくり（仕組みづくり）、や、小学校の空き時間の校庭開放など既存のスペースの有効活用などを検討するべきではないか、というアイデアが出された。

●解決アイデア

- ◎利用者側のニーズを汲み取った保育サービス実現のため、利用者情報を受信する場・仕組みを整えよう。(シール投票数 1 票)
- ◎子どもの遊び場が少なくなっている状況を解決するため、小学校の校庭開放や子どもの遊びやすい公園づくりをしよう！(シール投票数 9 票)
- ◎子育て支援センターを核として、親子や地域をつなぐ仕組みづくりをしよう！(シール投票数 10 票)

ワークショップ風景写真

